

# 地域の美しい景観形成でむらづくり部門天皇杯に貢献

【村山農業改良普及センター・西村山農業普及課】

- ◆課題名 そばを中心とした地域営農の推進
- ◆活動の対象 大井沢農作業受託組合
- ◆実施年度 平成14～15年度

## ◆ねらい

西川町大井沢地区は、月山・朝日連邦への玄関口であり、四季折々の自然の恵みの豊かな地域である。しかし、山間豪雪地であるため、高齢化が進み、農家数の減少や耕作放棄地の増加が進んでいる。このため、大井沢地区内の農業を守り、農用地の有効利用を進めることを目的としたいわば地域営農の中核となる組織として、大井沢農作業受託組合が平成12年に設立された。

受託組合では、地区内の転作地を団地化し主にそばの栽培を行っている。生産されたそばのほとんどは、町内の製麺業者が購入しており、品質に対する評価は高く、より一層の増産が望まれている。しかし、平成12年の播種期の大雨による出芽不良や、13年の9月下旬の降霜による登熟停止などより、近年の収量はいずれも約30kg/10aと低く、需要に見合った量が供給できていない。

このため、地域の土地利用計画に基づいた排水対策の徹底など畑地としての基盤づくりを進め、そばの収量安定を図り地域に十分な供給体制を整え、地域営農を担う基幹的組織として育成支援する。

## ◆活動の成果

1. 大井沢区が平成14年度農林水産祭むらづくり部門で天皇杯を受賞

耕作放棄地解消の取り組み、そばの作付けによる美しい農村景観の形成など、大井沢農作業受託組合の農業生産面による貢献も評価され、農林水産祭むらづくり部門で大井沢区が天皇杯を受賞した。

2. そばの収量向上

適切な基肥の施用と適期播種を行い、生育はほぼ順調であった。また、収穫期は例年に無い長雨で収量・品質の低下が懸念されたが、ほぼ適期に収穫が終了し、収量は約50kg/10aと昨年よりやや多くなった。

3. 地域内の労力が活用できる新たな作物の導入

地域にあったそばとの組合せ作物としてえだまめが導入され、収穫作業等に地域内の労力が有効に活用された。

## ◆活動の経過

1. そばの実証ほを設置し、適切な基肥及び播種量、適期播種及び収穫についての検討を行った。
2. そば以外に新たに導入する作物について検討を行い、気象条件、水稻・そばとの作業の競合等を考慮し、えだまめを導入することとし、栽培についての支援を行った。
3. 豊かなむらづくり表彰事業現地調査における支援を行った。

## ◆今後の展開

1. 水口側に停滞水があるなど、排水対策の改善の余地があるほ場があるので、さらに排水対策を徹底し、収量の向上を図る。また、県で推進している水田の畑地化事業の対象作物として新たにそばが追

加されたことから、畑地化事業の導入について検討する。

2. 新たにえだまめが導入されたが、収量がやや低かったこと、また良食味えだまめ生産のためJA独自に耕種基準を定めているが、一部不徹底であったことから、耕種基準を遵守した栽培を進め、えだまめの定着を図る。
3. 地域の土地利用計画を策定し、農作業受託組合の今後の方向について検討する。



開花期のそば



新たにえだまめへの取組み



#### ◆対象者の感想等

近年気象変動が大きく、そばの収量が不安定になっているが、排水対策の改善などにより、良質なそばを安定して、地元の製麺業者や民宿に供給していきたい。

また、今年初めて導入したえだまめについても、いいものが生産できたので、より収量上がるようがんばりたい。

#### ◆協力機関

JAさがえ西村山西川営農生活センター、西川町農林課